

平成28年度
海南市地域防災活動支援事業 実績報告



平成29年1月

海南市

《 目 次 》

1. 概要.....	1
1.1 地域支援事業の趣旨.....	1
1.2 事業の目標.....	1
1.3 実施概要.....	1
2. 防災研修会.....	3
2.1 第1回防災研修会.....	3
2.1.1 概要.....	3
2.1.2 実施風景.....	4
2.2 第2回防災研修会.....	6
2.2.1 概要.....	6
2.2.2 実施風景.....	6
2.2.3 防災マップの作成結果.....	9
2.3 第3回防災研修会.....	26
2.3.1 概要.....	26
2.3.2 実施風景.....	26
3. 黒江小学校防災学習会.....	27
3.1 概要.....	27
3.2 実施風景.....	27
4. 防災訓練.....	28
4.1 概要.....	28
4.2 訓練時の状況.....	28
4.2.1 津波避難訓練【訓練第1部】.....	28
4.2.2 二次避難経路の現地確認【訓練第2部】.....	32
5. 防災訓練報告会・黒江小学校防災学習発表会.....	33
5.1 概要.....	33
5.2 実施風景.....	33
6. 訓練後アンケート結果.....	36
7. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について.....	46

1. 概要

1.1 地域支援事業の趣旨

南海トラフ地震に備え、地震発生時の適切な行動や津波からの避難行動を身に付けるため、大半が浸水想定区域である重点地区（黒江・船尾地区）を対象に、津波避難訓練を実施する。訓練当日は、防災行政無線放送により「大津波警報」が伝達され、地域住民は予め想定した避難のタイミングや避難経路に従い、訓練に取り組むことで、それぞれが災害時に必要となる避難行動を確認する。

1.2 事業の目標

平成 22・23 年度より実施している、津波から「逃げ切る」訓練を一步進め、各住民ごとに、具体的な避難行動とそのタイミング、要配慮者の支援、被災後の避難所への避難（二次避難）を想定し、それぞれの災害時の行動を整理することで、地域住民一人ひとりの「自助」「共助」の精神の育成を図る。

1.3 実施概要

(1) 防災研修会

【第 1 回】

日時	平成 28 年 8 月 22 日（月） 19:00～21:30
場所	黒江防災コミュニティセンター 第 2 研修室
内容	1. 主催者挨拶 2. 学識経験者による講演 3. 近隣自治会の取り組み事例と成果の紹介 4. ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 5. 第 2 回防災研修会の予定と準備について

【第 2 回】

日時	平成 28 年 9 月 25 日（日） 10:30～12:30 ※研修会開催前（9:00～10:00）に各地区でまち歩きを実施
場所	黒江防災コミュニティセンター 第 2・第 3 研修室
内容	1. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、対策の検討〉 2. 第 3 回防災研修会の予定と準備について

【第3回】

日時	平成28年10月14日（金）19:00～21:00
場所	黒江防災コミュニティセンター 第2研修室
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒江小学校の取り組み状況の報告及び訓練スタッフの依頼について 2. 訓練当日のスケジュール・内容について 3. 訓練までの準備事項等について

(2) 黒江小学校防災学習会

日時	平成28年9月9日（金）13:50～15:25
場所	黒江小学校 ランチルーム
内容	1. 震災・学校支援チーム（EARTH）員による講話

(3) 防災訓練

日時	平成28年11月13日（日）9:00～12:00
場所	黒江・船尾地内
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 津波避難訓練【訓練第1部】 2. 二次避難経路の現地確認【訓練第2部】（希望者のみ）

(4) 防災訓練報告会・黒江小学校防災学習発表会

日時	平成28年12月15日（木）13:00～15:00
場所	黒江小学校 体育館
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒江小学校児童発表 2. 黒江小学校防災教育の取り組み報告 3. 地区訓練実施結果の報告

2. 防災研修会

2.1 第1回防災研修会

2.1.1 概要

日時	平成28年8月22日（月）19:00～21:30
場所	黒江防災コミュニティセンター 第2研修室
参加者	地区参加者 64名 職員参加者 13名 合計 77名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶 研修会の開催趣旨の説明2. 学識経験者による講演 テーマ「津波避難対策の検討課題」 関西学院大学 総合政策学部 都市政策学科 准教授 照本 清峰 氏3. 近隣自治会の取り組み事例と成果の紹介 テーマ「地域での防災意識と要援護者支援への取り組み」 和歌山市和歌浦地区片男波自治会 玉置 成夫 氏4. ワークショップの進め方について ワークショップの内容・実施方法について説明5. ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 ・各地区ごとにグループ員で、地区で想定する避難場所・避難路、 避難行動のタイミング、要配慮者の支援、二次避難について協議 し、大判（A0）防災マップに記載6. 第2回防災研修会（まち歩き）の予定と準備について ・次回第2回防災研修会の実施日程・内容について案内 ・第1回防災研修会で作成した地区の防災マップをもとに、避難 路の危険箇所等を第2回防災研修会で反映させるための、事前 のまち歩きを依頼

2.1.2 実施風景

(1) 主催者挨拶、学識経験者による講演、近隣自治会の取り組み事例と成果の紹介



主催者挨拶



学識経験者による講演



近隣自治会の取り組み事例と成果の紹介

(2) ワークショップ（各地区の防災マップ作成）の様子



1区（室山東、室山西、室山南、室山）



2区（北一、北二、北三、北四、北五）



3区 (黒牛、宮ノ坂、元屋敷、西ノ浜、天王)
4区 (南ノ浜、市場)



5区 (船尾口、汐見、居村)
6区 (船尾東、船尾中、西船尾)



7区 (琴ノ浦東、琴ノ浦、琴ノ浦仲、
琴ノ浦朋、矢ノ島)



8区 (築港西、築港東)



9区 (荒浜、河内浜、昭成、集橋
集橋五友会)



10区 (東浜北、東浜東、東浜中、
東浜西、東浜南)

2.2 第2回防災研修会

2.2.1 概要

日時	平成28年9月25日(日) 10:30~12:30 ※研修会開催前(9:00~10:00)に各地区でまち歩きを実施
場所	黒江防災コミュニティセンター 第2・第3研修室
参加者	地区参加者 83名 職員参加者 12名 合計 95名
内容	1. 第2回防災研修会の実施内容について 研修会の協議内容等の説明 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、 対策の検討〉 ・まち歩きで確認した避難路の危険箇所等を、第1回防災研修会 で作成した防災マップに反映 ・まち歩きで確認した危険箇所や二次避難に関する課題をもとに、 避難中・避難後それぞれの状況で想定される問題点とその対策 について協議 ・各地区で協議・作成した、地区の防災マップの内容を発表 3. 第3回防災研修会の予定と準備について ・次回第3回防災研修会の実施日程・内容について案内

2.2.2 実施風景

(1) まち歩きの様子



室山団地周辺



浄國寺周辺



海南スポーツセンター周辺



池崎山周辺

(2) 防災マップの発表の様子



1区 (室山東、室山西、室山南、室山)



2区 (北一、北二、北三、北四、北五)



3区 (黒牛、宮ノ坂、元屋敷、西ノ浜、天王)



4区 (南ノ浜、市場)



5区 (船尾口、汐見、居村)



6区 (船尾東、船尾中、西船尾)



7区 (琴ノ浦東、琴ノ浦、琴ノ浦仲、
琴ノ浦朋、矢ノ島)



8区 (築港西、築港東)



9区 (荒浜、河内浜、昭成、集橋
集橋五友会)



10区 (東浜北、東浜東、東浜中、
東浜西、東浜南)

2.2.3 防災マップの作成結果

(1) 避難中の問題点と対策

自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
室山東	①	地震で大木が転倒する可能性有り	関電へ連絡し、伐採を依頼	
	②	地震でアパートの水タンクが転倒する可能性有り		行政から持ち主への連絡が必要
室山西	①	山崩れで道路がふさがれる可能性有り。他に避難路なし (周辺住民について、住所地は和歌山市であるが、自治会は室山西に加入)		海南市・和歌山市の連携をお願いしたい
	②	山崩れで道路がふさがれる可能性有り	他の避難経路を検討する	
室山南	①	高齢者、要介護者などの支援	事前に要配慮者を支援できる人を募り、災害時はできるだけ早く避難支援を行う	海南市と避難行動要支援者名簿の受け取り・個別計画の検討を行い、地区内の要配慮者の把握と支援者の検討を進める
	②	主要幹線は問題ないが、東西道路道幅狭く、電柱・家屋の倒壊、電線によるふさがりで危険	主要幹線道路を使って避難する	
	③	避難所である室山保育所の耐震性、資機材・備品整備が必要	海南市へ要望し、耐震性の診断の要望、資機材・備品の要望を行う	海南市による室山保育所の耐震診断の実施。資機材・備品の整備
室山	①	避難経路上に崖崩れのおそれがある箇所有り	迂回ルートを決めておく	迂回ルート上に低地がある。改修工事の早期着工
	②	ブロック塀倒壊のおそれ有り		

自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
北一	①	元榎本宅、廃屋となり倒壊のおそれ大。道路に倒れる可能性有り	早急に取り壊しを依頼するが、所有者がどのように考えているかは難しい	市より撤去の指導をお願いする
	②	松下宅前、ブロック塀が古いため倒壊のおそれ有り。道路に倒れると通行不能となる	倒壊しても左右両方に通行は可能。ただし、避難時は注意が必要と思われる	
	③	丸一宅より山本（浩）宅までの間、道路が急な坂となっている。足が不自由な方に対し、支援が必要となる	事前に要配慮者を支援できる人を募り、災害時はできるだけ早く避難支援を行う	
北三	①	田村孝一さん宅上の斜面の崖崩れと廃屋が危険	持ち主と借家人が判明しており、現在取り壊し中のため、近日中に解決。ただし、崖崩れは対策が必要	崖崩れ対策が必要 ※崖崩れ危険地域に指定されている
	②	町田錠二さん宅の隣の長屋の廃屋が危険	災害時には危険なため、早急な対策が必要	空き家対策事業として対策をとって欲しい
	③	河野守さん宅下の空き地の雑草が危険	持ち主が複数のため難しい。道路が児童の通学路のため、早急な対策が必要	行政から持ち主に連絡してもらう
	④	八幡さん宅前の道路が斜面で危険、さらに豪雨の時の鉄砲水が危険	個人で板や土嚢を置いて対策しているが、豪雨の時には心配	行政から災害対策で鉄砲水対策をお願いする
	⑤	町田俊夫さん宅の石垣が危険。大きく膨らんでいるので崩れると隣家が危険	持ち主の町田俊夫さんには、自治会から伝えているが、個人での対策は困難	行政として補助対策があればお願いしたい
	⑥	町田喜昭さん宅から県道までの道路の斜面が急で災害時には危険	斜面・道路は手すりがあるが、急なため、安全な避難路の確保が必要	別の避難経路の確保を考えて欲しい

自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
北五	①	避難先の中言神社周辺の道路は、通常時でも軽自動車しか通れないため、人の通行が不安		安全な通路の確保
	②	上記による物資の供給への不安		安全な通路の確保
黒牛	①	階段が多いため、車椅子などの避難が難しい	他の避難経路を通る 近所での助け合い 支援できる人を探しておく	
	②	上り坂のため、歩行困難な人は大変である	近所での助け合い 支援できる人を探しておく 車椅子を用意しておく	
元屋敷	①	落下物等で通行が困難になる	できるだけ複数の避難経路を検討する	
天王	①	招魂山の登り坂が急勾配で、通路に雑草等がはみ出している	避難路の整備	
	②	浄国寺裏の坂が急勾配で、石垣の崩れのおそれがある	他の避難経路を検討する	
	③	電柱が倒れ、道がふさがれるおそれがある	他の避難経路を検討する	
西ノ浜	①	道幅が 1.5～2.1mの狭い道に電柱が多い。ブロック塀、トタン塀、電柱、空き家がある	他の避難経路を検討する (自分自身で体験する)	
	②	上り坂が急なため、車椅子での避難は困難。支援が必要	声を掛け合う	
	③	階段があるため、車椅子での避難は困難。支援が必要	声を掛け合う	

自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
西ノ浜	④	川端通りの西ノ浜側の道に亀裂有り。陥没のおそれ有り		早急に補修
南ノ浜・市場	①	防災行政無線が聞こえにくい。サイレン音のみで内容が聞き取れない		
	②	高齢者や足の不自由な方の避難が難しい。進入路がわかりにくい		避難路への照明・手摺・案内板の設置
	③	通路の草・倒木がある。進入路がわかりにくい		案内板の設置
	④	車椅子がない家の対策		
	⑤	道幅が狭く、家屋の倒壊により通行ができなくなる可能性有り		
汐見・船尾口・居村	①	招魂山へ行くルートของ道が舗装されていない		
	②	道路の真ん中が低くなっていて、水が溜まりやすく通れない	他の避難経路を検討する	道路の舗装
	③	地震で隣接する家屋が倒壊した場合、道路がふさがれる可能性がある	他の避難経路を検討する	市で対策を検討（通学路として利用されているため）
	④	一部に段差があり危険		
船尾東	①	家屋の倒壊で通行不能	他の避難経路の検討 避難時間の確認	車椅子以外の方法について、行政に要請（担架等）
	②	空き家の整理 物干し台の撤去	該当者への要請	行政より該当物件への要請

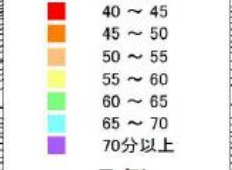
自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
船尾中	①	アーケードの落下	避難経路を変更する	
	②	屋根瓦の飛散	避難経路を変更する	
	③	避難場所直近の石垣崩壊	避難場所を変更する ※可能かどうか要検討	市で補修してもらえないのか
	④	急勾配のため、車椅子で通りにくい	担架で対応 ※可能かどうか要検討	
西船尾	①	キンタロー駐車場周辺までは上り坂のため、車椅子での避難が大変	担架で運ぶこと	車椅子の準備（最低3台） ※車椅子があれば避難支援者を検討する
	②	キンタローのアーケードについて、倒壊の可能性有り		
	③	とんだ池周辺付近は道幅が1.5mしかなく、急勾配		
	④	避難場所まで行くのに明かりがない		照明の設置（避難場所までの経路がわかるようにして欲しい）
琴ノ浦仲	①	避難路脇に木造の古い建物があり、崩れる可能性がある	迂回ルートの確認	
	②	避難場所へのルートに急な上り坂があるため、車椅子等は自力では困難	要援護者の事前把握	
	③	崖崩れの可能性	状況を定期的に把握	工事していただく（現在進行中）
矢ノ島	①	避難場所のホテル横の道が急な坂道であり、車椅子での避難に支援が必要	事前に要配慮者を支援できる人を決めておく	

自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
琴ノ浦	①	国道との合流地点が坂のため、車椅子の場合は押す人が必要		
琴ノ浦册	①	里道のため道幅が狭く、ブロック塀が倒れて通れない		
築港西	①	前田マンションのブロック塀が倒れる	隣接の駐車場より避難する	行政より指導
	②	電柱の傾き有り。倒れて通行ができなくなる	関西電力、NTTに点検を依頼	
	③	ポンプ場からの排水の逆流が心配		行政で対策を検討
	④	道路地盤沈下	定期的に見回る	原因究明と抜本的な改善を要望
築港東	①	国道を渡るときに信号が機能しているかどうか	機能していない場合は、できるだけとまって渡る	
	②	ポンプ場前の道幅が狭い	車に気を付けて、できるだけとまって行動	
	③	旧家屋が密集しているため、倒壊の危険有り	地域で配慮する助け合う	支援者名簿の作成
	④	招魂山付近の道幅が狭い	危険な箇所には気を付ける	
	⑤	係留ボートが打ち上げられる		行政で対策を検討

自治会	地図番号	問題点の内容	問題点への対策	
			地域で対応できること	行政と連携する必要があること
荒浜・河内浜・昭成・集橋五友会	①	招魂山への避難に当たり、道路が狭く、スロープが急なため、車椅子等で避難するのが困難	迂回路を考える必要がある	
東浜西	①	災害時は家が倒れて通行ができなくなる		
	②	古い家がある細い道は移動できない		
	③	汐見橋の強度が不安（どの程度あるか把握が必要）	他の避難経路を検討する	耐震改修などをしてもらう
東浜中	①	古い家が多い	駐車場に集まってから避難場所に向かう	太陽光発電の誘導灯を設置してほしい
	②	道幅が狭い 高齢者が多い		
東浜東	①	城山集会所までの道が危険		
	②	独居老人が多く、避難が困難	空き地に集合し、集団で早めに避難する	
東浜南	①	上り、下り坂があり、車椅子等は支援者が必要	事前に要配慮者を支援する人を募り、災害時に要支援を行う 避難路線マップ及び要配慮者宅を各班長に配布し、要配慮者支援を行う	

黒江地区 01

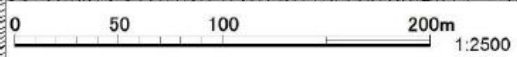
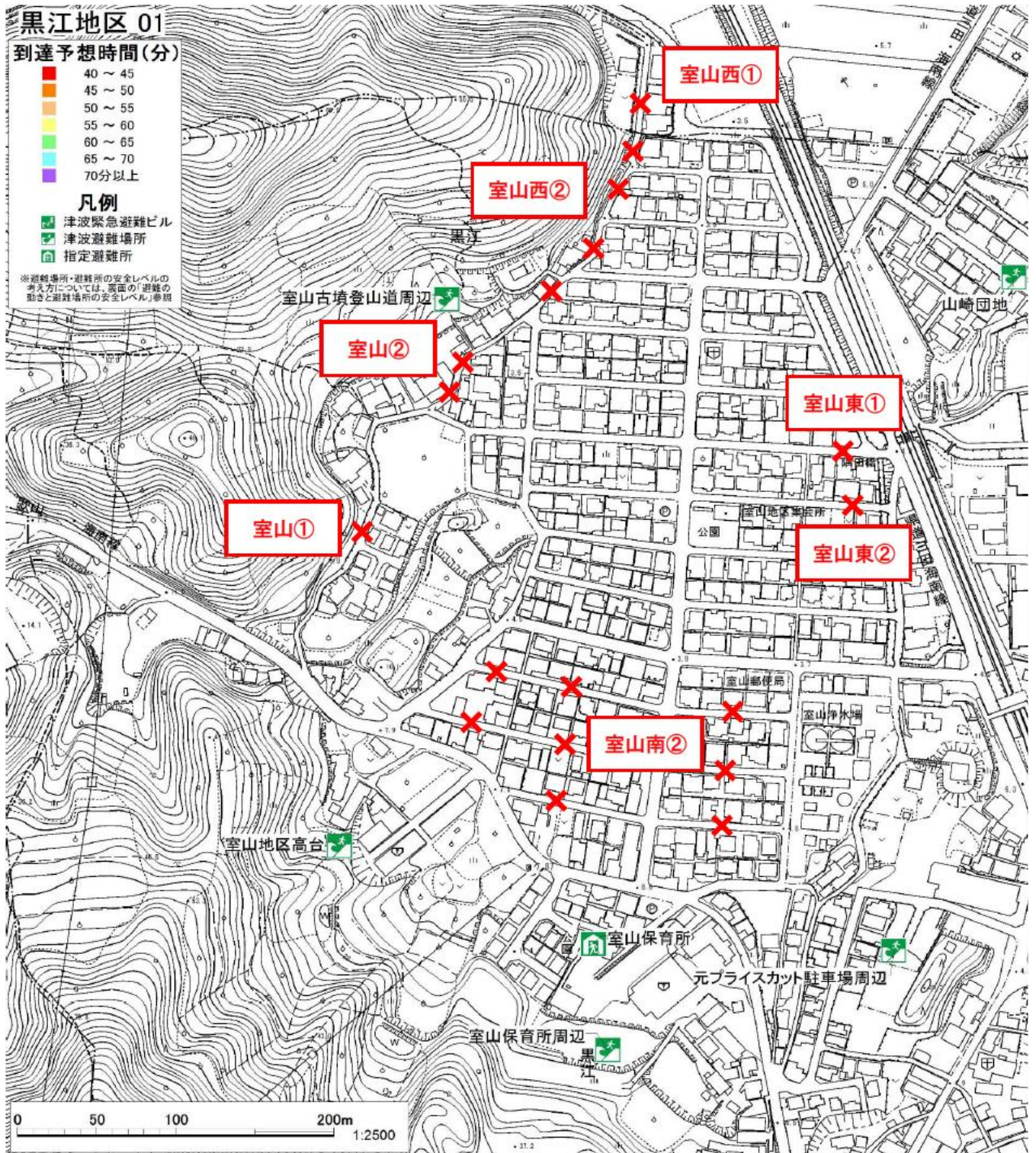
到達予想時間(分)



凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、裏面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」参照



避難時の行動を想像しよう

(実際の災害時は想定どおりの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

	①	②			③	④	⑤	
	地震発生後に避難する場所	避難場所への移動以外に行うことの内容※1			近隣の要配慮者の支援の内容	避難生活を送る避難所※2	④に避難できない場合の避難先※3	
記入例	室山地区高台	身の安全の確保、家族の安全確認	応急手当、災害(津波)情報の収集	非常持ち出し品の準備、火元の確認	近所へ声かけ、要配慮者の避難支援	〇〇さんに声をかける 〇〇さんを〇〇避難所へ連れて行く	室山保育所	亀川小学校

避難にかかる時間を想像しよう

(実際の災害時は想定どおりの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

	①	②	③	④				⑤	⑥	⑦
	避難する場所	自宅付近に津波が到達する時間 ※1	①の避難場所までの移動時間 ※2	避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間 ※3				避難にかかる時間(③+④)	近隣の要配慮者の支援の内容	①の避難場所から避難所への移動
記入例	浄國寺周辺	約 80 分	約 15 分	身の安全の確保、家族の安全確認	応急手当、災害(津波)情報の収集	非常持ち出し品の確認	近所へ声かけ、要配慮者の避難支援	約 80 分	〇〇さんに声をかける 〇〇さんを〇〇避難所へ連れて行く	○
		約 分	約 分	内容				約 分		
				時間						

※1 自宅が浸水しない場合は、付近の到達時間で最も近い時間を記入してください。
 ※2 避難する場所までの移動時間を記入してください。実際に歩いて確認するなど、できるだけ正確な時間を記入してください。
 ※3 避難場所への移動以外に行うことの内容とかかる時間を想像して記入してください。ただし、「⑤」避難にかかる時間」が「②」自宅付近に津波が到達する時間」より短くなるように、内容・時間を記入してください。

黒江地区 02

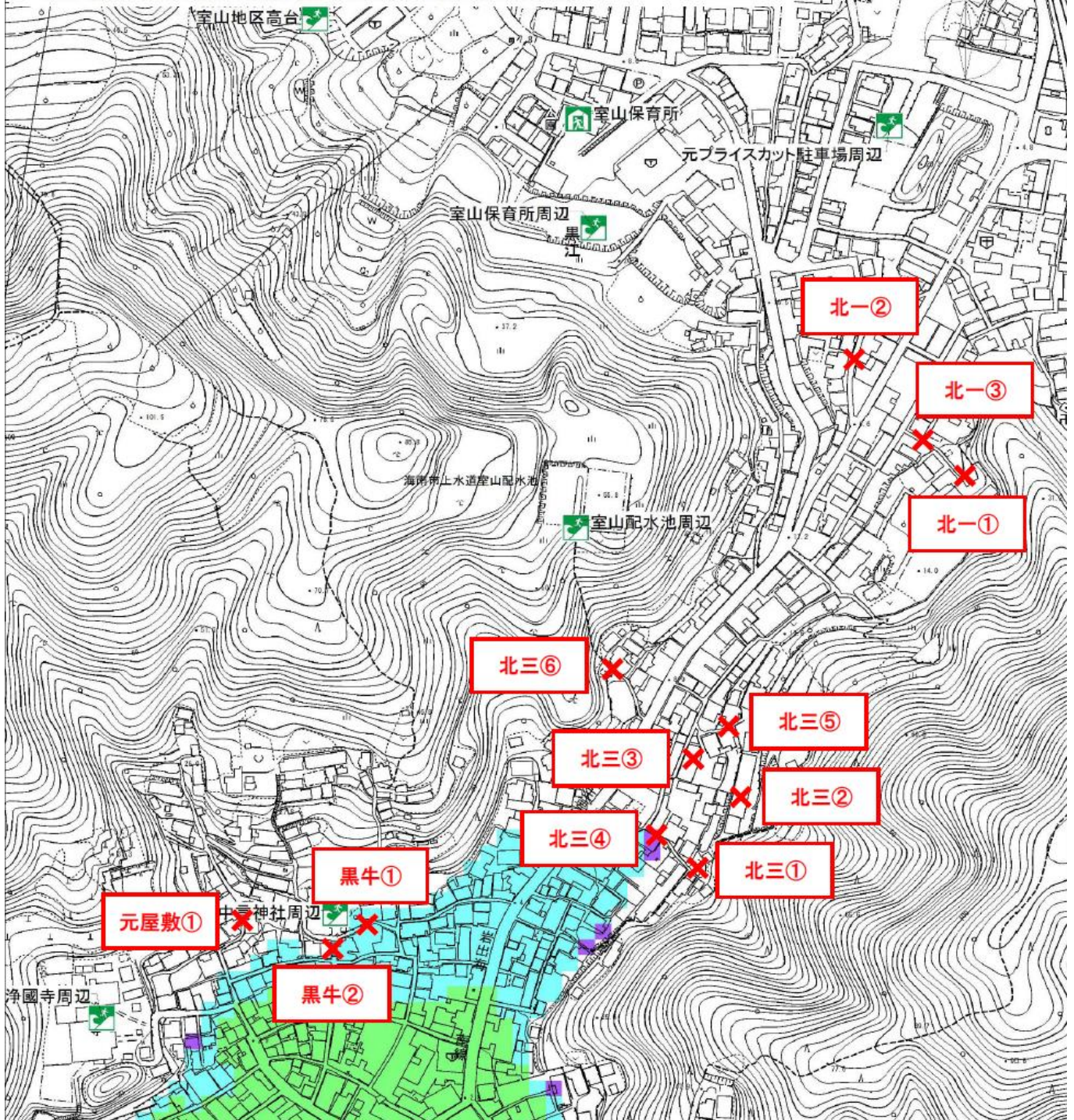
到達予想時間(分)

- 40 ~ 45
- 45 ~ 50
- 50 ~ 55
- 55 ~ 60
- 60 ~ 65
- 65 ~ 70
- 70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、表面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」参照

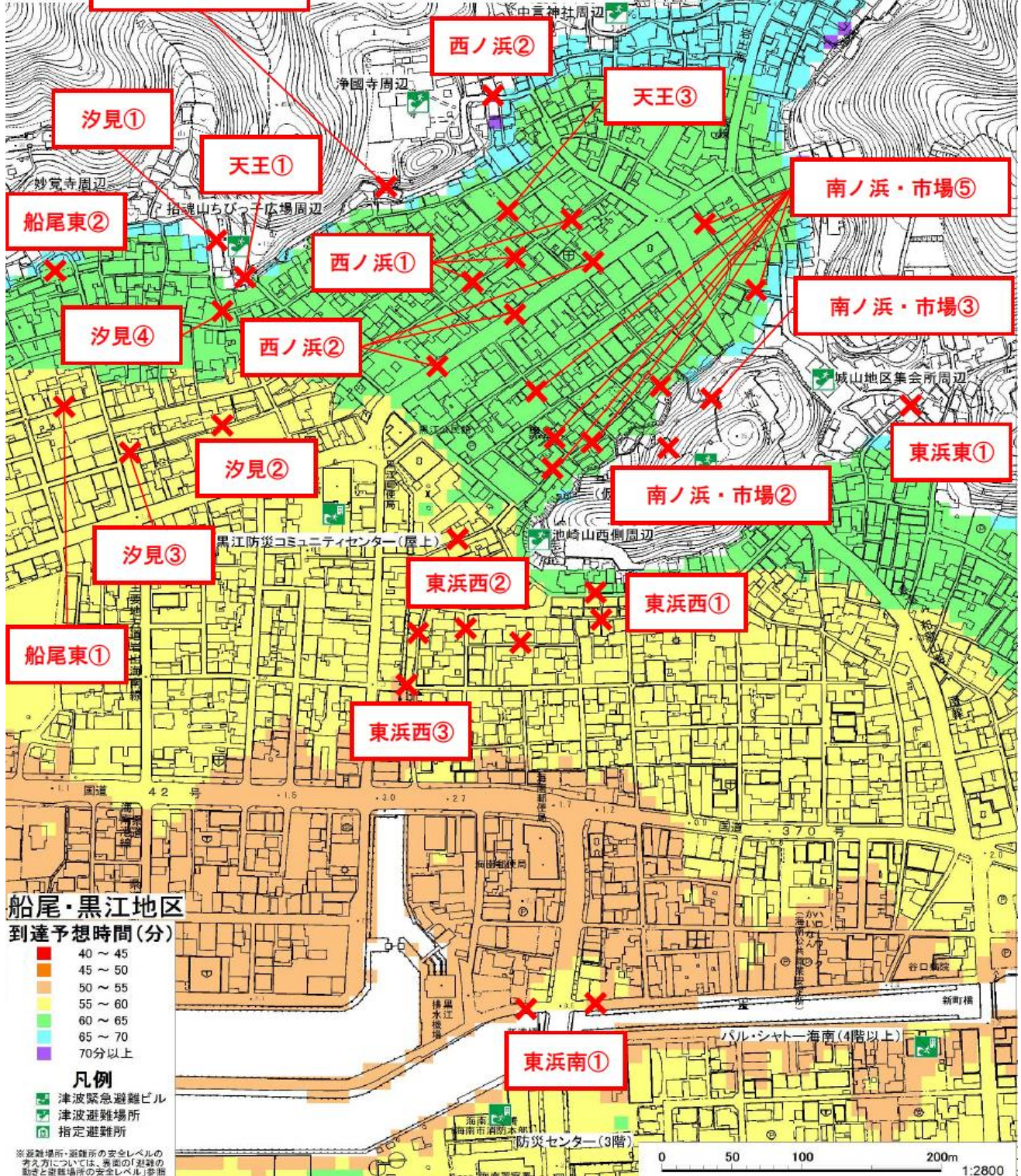


避難にかかる時間を想像しよう

(実際の災害時は想定通りの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

	①	②	③	④				⑤	⑥	⑦				
	避難する場所	自宅付近に津波が到達する時間 ※1	①の避難場所までの移動時間 ※2	避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間 ※3				避難にかかる時間(④+⑤)	避難の要配慮者の支援の内容	①の避難場所から避難所への移動				
記入例	浄国寺周辺	約 60 分	約 15 分	身の安全の確認、家族の安全確認	5 分	応急手当、災害(津波)情報の収集	10 分	非常持ち出し品の準備、火元の確認	10 分	近所へ声かけ、要配慮者の避難支援	20 分	約 60 分	〇〇さんに声をかける 〇〇さんを〇〇避難所へ連れて行く	○
		約 分	約 分	内容	時間	内容	時間	内容	時間	約 分				

※1 自宅が浸水する時間
 ※2 避難する場所までの移動時間
 ※3 避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間



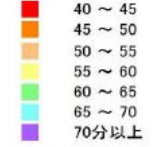
避難にかかる時間を想像しよう

(実際の災害時は想定どおりの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	避難する場所	自宅付近に津波が到達する時間 ※1	①の避難場所までの移動時間 ※2	避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間 ※3	避難にかかる時間(③+④)	近隣の要配慮者の支援の内容	①の避難場所から避難所への移動
記入例	浄園寺周辺	約 60 分	約 15 分	身の安全の確保、家族の安否確認	約 60 分	〇〇さんに声をかける 〇〇さんを〇〇避難所へ連れて行く	○
				内容 時間 5 分			
		約 分	約 分	内容 時間 分	約 分		

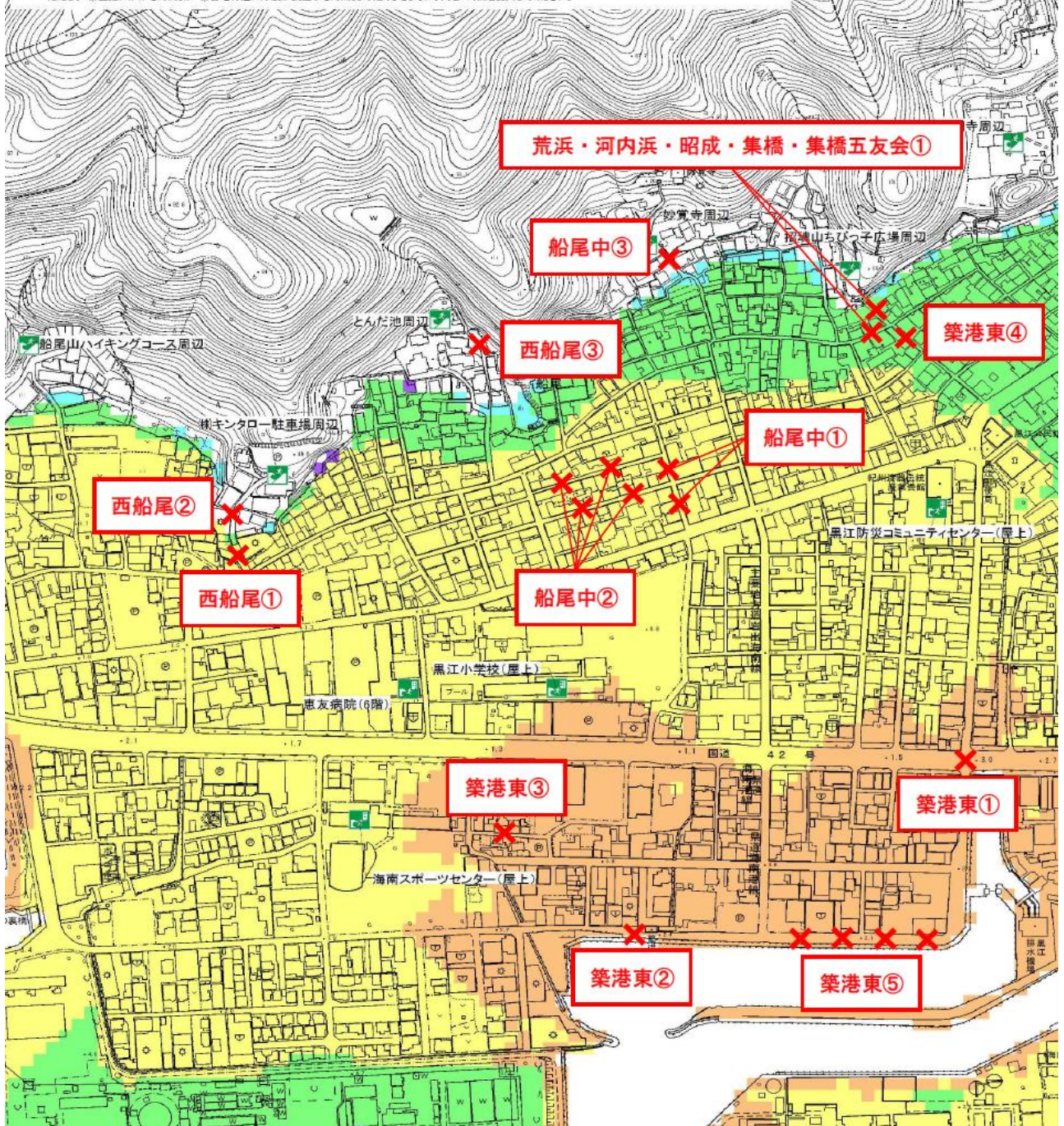
※1 自宅が浸水しない場合は、付近の到達時間で最も近い時間を記入してください。
 ※2 避難する場所までの移動時間を記入してください。実際に歩いて確認するなど、できるだけ正確な時間を記入してください。
 ※3 避難場所への移動以外に行うことの内容とかかる時間を想像して記入してください。
 ただし、「(避難にかかる時間)」が「②自宅付近に津波が到達する時間」より短くなるように、内容・時間を記入してください。

**船尾地区_01
到達予想時間(分)**



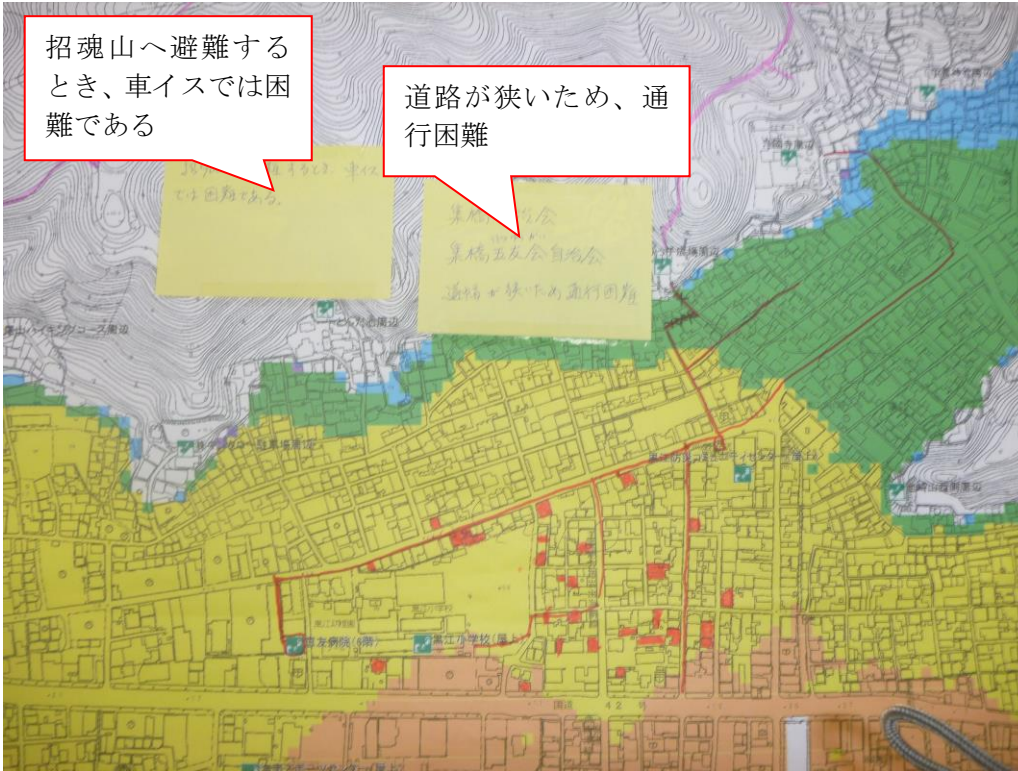
- 凡例**
- 津波緊急避難ビル
 - 津波避難場所
 - 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、東部の「避難の期」と避難場所の安全レベル参照



※作成した防災マップ【9区：荒浜・河内浜・昭成・集橋・集橋五友会】

①避難場所・避難経路と避難路の問題点、要配慮者、二次避難経路の確認



- ・避難場所（招魂山ちびっこ広場周辺、浄国寺周辺）までの避難経路をマーカーで記入
- ・各自治会内で避難時に支援が必要と考えられる家庭をマーカーで着色
- ・避難場所から避難所までの避難経路（招魂山ちびっこ広場周辺～室山保育所）をマーカーで記入

②津波の到達予想時間の確認、地震発生後の取り組み、二次避難先の避難所の確認

防災マップ 協議用記入用紙

自治会名	① 地区の指定する避難場所	② 自治会内に津波が到達する時間	③ 地震発生後の地区の取組みの想定(時系列)※2				④ 避難生活を行う避難所
			地震発生後 ～15分後	16分後 ～30分後	31分後 ～45分後	46分後 ～60分後	
荒浜	浄国寺周辺	約 55 分 約 60 分	・地区住民の安否確認 ・地区住民への避難の声かけ ・救助、救出	・救助、救出 ・要配慮者の避難支援 ・資機材の持出し	・要配慮者の避難支援 ・避難場所での避難者の確認	・要配慮者の避難支援 ・避難場所での避難者の確認	室山保育所 亀川小学校
河内浜	招魂山 浄国寺	約 50 分	声かけ	避難の確認 声かけ	声かけ	声かけ 声かけ	
昭成	招魂山 コミニ	約 50 分 約 55 分	声かけ	一回目の点呼 二回目の点呼 環境者へ支援	声かけ	声かけ 声かけ	両度声かけ 二回確認
集橋	招魂山 浄国寺	約 50 分 約 55 分	声かけ	声かけ	声かけ	声かけ 声かけ	
集橋五友会	招魂山 浄国寺	約 55 分	声かけ	声かけ	声かけ	声かけ	
昭成	招魂山 コミニ	約 50 分 約 55 分	声かけ	一回目の点呼 二回目の点呼 環境者へ支援	声かけ	声かけ 声かけ	両度声かけ 二回確認
荒浜	招魂山 浄国寺	約 50 分	声かけ	声かけ	声かけ	声かけ	

- ・地区ごとの津波の到達予想時間を確認
- ・地震発生後の地区の取り組み（声かけ、避難支援等）を想定し、取り組みを行う時間帯ごとに記入
- ・避難生活を送る避難所（二次避難先）を想定

(2) 避難後の問題点と対策

自治会	問題点の内容	問題点への対策	
		地域で対応できること	行政と連携する必要があること
室山東	避難場所への人の集中具合による危惧	前もっての班での振り分けの検討	
	避難所での物資不足の危惧	物資の備蓄場所の確保	倉庫設置に係る行政の協力
室山西	避難場所に一時滞在する必要がある場合、食料等の物資が不足する恐れがある	地区の自主防災組織で避難場所に備蓄物資を備蓄しておく	物資の購入時に自主防災組織育成補助金を活用する ※室山保育所閉所後の防災施設としての活用に向け、市の積極的な対策を希望する
室山南	避難者の確認作業の体系化	避難者名簿の整理・体系化する	
	避難場所に一時滞在する必要がある場合、食料等の物資の不足が生じるおそれ	室山保育所への備蓄物資の整備	海南市と相互で整備していく
室山	避難場所（室山保育所）は老朽化のため、倒壊するおそれ有り	運動場の活用（テント等必要）も想定しておく	早期の耐震対策、物資の充実を要望（大型テント、水の備蓄等）
北一	室山保育所は近隣の住民が多数集中すると思われる		他の場所を検討する
北二	浸水の心配はないが、家等が潰れたあとの食料・物資の問題	各自食料を3日分程度、備蓄することが必要	室山保育所近くのアパートの借り上げ等検討
北三	避難先の室山保育所の収容量が十分あるかが心配。要配慮者や高齢者の避難の再考	要配慮者や高齢者については、別途避難先を現地で確保する	左記について行政で支援していただく 空き家等を活用する
北五	避難先となる中言神社について、物資の供給、収容量、一時滞在時の物資に関しての不安		

自治会	問題点の内容	問題点への対策	
		地域で対応できること	行政と連携する必要があること
黒牛	二次避難場所に行くのが困難である		発生時、早急の対応が欲しい
元屋敷	この地区の避難場所にはトイレが1個所しかない。24時間過ごせる準備がない人が多数と思われる	津波等で仮設トイレが運搬できない場合の対応策を考える	トイレの対策についての確認、周知
	避難人数により多数になる場合がある		避難場所の収容人数の把握
天王	避難場所（招魂山）にトイレがない		トイレの設置
	避難場所（招魂山）が雑草だらけで整備されていない		ソーラーライトの設置 木々、草の除去
	避難場所（招魂山）に備蓄倉庫がない	設置後の管理	倉庫の設置
	二次避難場所の不足		
西ノ浜	避難場所に一時滞在する必要がある場合、食料・トイレの物資が不足するおそれがある		備蓄倉庫の設置（簡易トイレなど） ソーラーライトの設置
南ノ浜・市場	トイレ・水（飲料水）の確保		
	避難場所が狭い、孤立する（池崎山西側周辺）		

自治会	問題点の内容	問題点への対策	
		地域で対応できること	行政と連携する必要があること
汐見・船尾口・居村	食料の不足	各自で避難後の食料について検討する必要がある	
	浄国寺から避難所への移動が困難	経路の確認	
	二次避難経路の船尾山ハイキングコースは、雑草に覆われ、段差などの危険もある		避難路の整備（草刈り、大型の案内板の設置）
船尾東	避難場所のスペースが狭い	他の避難場所へ避難	行政との連絡で避難場所の情報の確認 連絡方法の確認
	避難場所への通路に坂道が多い	足の不自由な人用に担架を準備	行政で担架の準備場所を確保
船尾中	避難場所から避難所への移動が困難（遠距離）		避難所を直近に設置することについて検討していただきたい
	避難場所のスペースが狭い。トイレの問題（断水で使用不可となる）		
西船尾	避難場所に一時滞在する必要がある場合、食料等の物資が不足するおそれがある	備蓄の食品・水を確保する	不足分は行政で補充してほしい
	トイレの不足	トイレ袋等の確保	不足分は行政で補充してほしい
	食料等を備蓄するための倉庫の設置		自主防災組織育成補助金を活用する
琴ノ浦仲	船尾山ハイキングコースのルートが草でわかり辛い。急なため体力的に困難なケースがある	主体的に整備を行う	

自治会	問題点の内容	問題点への対策	
		地域で対応できること	行政と連携する必要があること
矢ノ島	避難場所から山へ登る必要が生じた場合、設置されている階段に、手摺等の整備が必要		階段の整備等に行政の支援が必要
	室山保育所へ避難する山道が不明（草木密集のため）		整備等に行政の支援が必要
琴ノ浦朋	避難場所の設備の不足		簡易トイレの設置 テントの用意
築港西	避難場所の周囲が浸水し、避難所への移動ができない	地区の自主防災組織で避難場所に備蓄物資を備蓄しておく	市の備蓄では足りないため、備蓄量を増やすように要望
築港東	招魂山に避難した場合にトイレがない	簡易トイレなどの準備	保管するための倉庫の設置
	招魂山から二次避難する場合、道が険しくて困難	道の整備	現地確認のうえ、住民と協議
荒浜・河内浜・昭成・集橋五友会	避難場所の招魂山広場が雑草でおおわれている		招魂山広場の草刈り
東浜西	避難場所での物資の不足	自分たちの居場所がわかるように、備蓄物に発煙筒などを用意しておく	城山の避難場所に物資を備蓄してもらう

2.3 第3回防災研修会

2.3.1 概要

日時	平成28年10月14日（金）19:00～21:00
場所	黒江防災コミュニティセンター 第2研修室
参加者	地区参加者 77名 黒江小学校（校長、教頭） 合計 79名
内容	1. 黒江小学校の取り組み状況の報告及び訓練スタッフの依頼について ・黒江小学校より訓練に向けての取り組み状況の報告と訓練当日の訓練スタッフの動員について依頼 2. 訓練当日のスケジュール・内容について ・危機管理課より訓練当日のスケジュール、実施内容（第1部津波避難訓練、第2部二次避難経路の現地確認）について説明 3. 訓練までの準備事項等について ・訓練までに各家庭用での防災マップの作成を依頼

2.3.2 実施風景



黒江小学校長あいさつ



取り組み状況報告・訓練スタッフ依頼



会場の様子



会場の様子

3. 黒江小学校防災学習会

3.1 概要

日時	平成 28 年 9 月 9 日 (金) 13:50~15:25
場所	黒江小学校 ランチルーム
参加者	5年・6年生児童 校長、教頭、5年・6年生担当教諭
内容	1. 震災・学校支援チーム (EARTH) 員による講話 テーマ「被災後の生活のための心構えと知識」 震災・学校支援チーム (EARTH) 藤本 晋平 氏 ・東日本大震災、熊本地震への派遣の経験をもとに、南海トラフ地震が発生した際に、取るべき行動や避難所生活のための心構え・知識を教示

3.2 実施風景



防災学習会の様子 (5年生)



防災学習会の様子 (5年生)



防災学習会の様子 (6年生)



防災学習会の様子 (6年生)

4. 防災訓練

4.1 概要

日時	平成28年11月13日（日）9:00～12:00	
場所	黒江・船尾地内	
参加者	地区参加者	1,476名
	訓練スタッフ	
	地区（自治会役員・消防団員等）	36名
	小学校（児童・職員）	60名
	市職員（津波緊急避難ビル・避難所配備職員等）	18名
	合計	1,590名
内容	1. 津波避難訓練【訓練第1部】 2. 二次避難経路の現地確認【訓練第2部】（希望者のみ）	

4.2 訓練時の状況

4.2.1 津波避難訓練【訓練第1部】

(1) 室山団地、室山保育所付近



避難場所（室山保育所）への避難



避難場所（室山保育所）付近の様子



避難場所（室山保育所）の様子



市備蓄倉庫の内容物の確認

(2) 浄國寺、招魂山ちびっこ広場、妙覚寺駐車場、黒江防災コミュニティセンター付近



避難場所（浄國寺）の様子



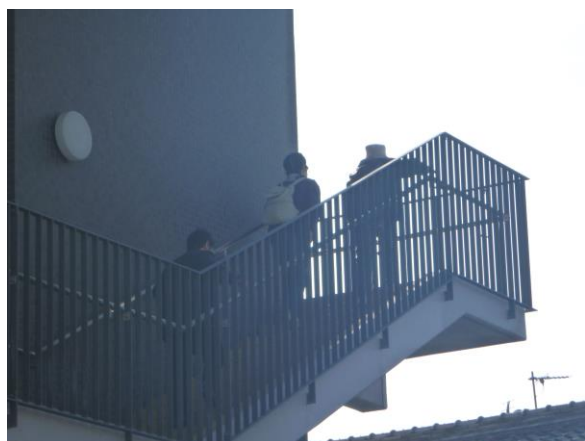
避難場所（招魂山ちびっこ広場）への避難



避難場所（招魂山ちびっこ広場）の様子



避難場所（妙覚寺駐車場）の様子



避難場所（黒江防災コミュニティセンター屋上）への避難



避難場所（黒江防災コミュニティセンター屋上）の様子

(3) 海南スポーツセンター付近



避難場所（海南スポーツセンター屋上）への避難



避難場所（海南スポーツセンター屋上）への避難



避難場所（海南スポーツセンター屋上）への避難



避難場所（海南スポーツセンター屋上）の様子



避難訓練後のミーティング

(4) 訓練スタッフ（避難場所の避難者誘導、通行止め箇所）



訓練スタッフの役割・配置説明



児童と地区・消防団のあいさつ・打ち合わせ



配置場所（避難場所）への移動



配置場所（通行止め箇所）への移動



避難場所の避難者誘導スタッフ



通行止め箇所スタッフ

4.2.2 二次避難経路の現地確認【訓練第2部】



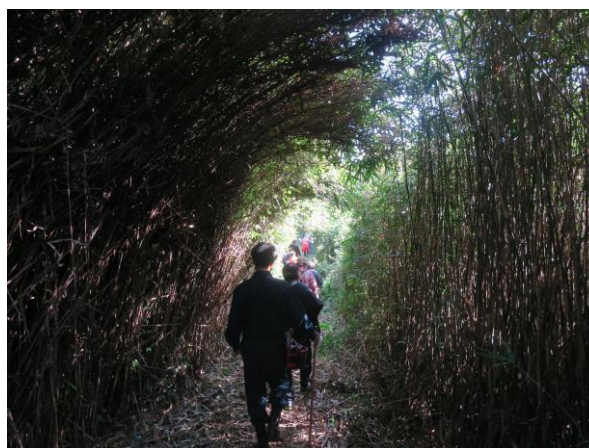
出発地点（船尾山ハイキングコース入口）付近



現地確認の様子



現地確認の様子



現地確認の様子



現地確認の様子



避難所（室山保育所）付近

5. 防災訓練報告会・黒江小学校防災学習発表会

5.1 概要

日時	平成 28 年 12 月 15 日（木） 13:00～15:00
場所	黒江小学校 体育館
参加者	黒江小学校（3～6年生児童、校長、教頭、担当教諭） 地区参加者（自治会・自主防災組織代表者、児童保護者 等）
内容	<ol style="list-style-type: none">黒江小学校児童発表<ol style="list-style-type: none">防災学習報告<ol style="list-style-type: none">3年生「海拔調べ」4年生「地震・津波から大切な命を守るために」5年生「地域の避難場所調べ」6年生「避難経路・計画」訓練の作文発表<ol style="list-style-type: none">5年生代表2名「自宅から避難して」6年生代表2名「スタッフとして参加して」黒江小学校防災教育の取組み報告<ol style="list-style-type: none">防災教育担当教諭より報告地区訓練実施結果の報告<ol style="list-style-type: none">地区代表として、室山南自治会自主防災会、築港西自治会自主防災会より報告海南市教育委員会による講評

5.2 実施風景



黒江小学校長あいさつ



防災学習報告（3年生）



防災学習報告（4年生）



防災学習報告（5年生）



防災学習報告（6年生）



訓練の作文発表（5年生代表）



訓練の作文発表（6年生代表）



黒江小学校防災教育の取組み報告



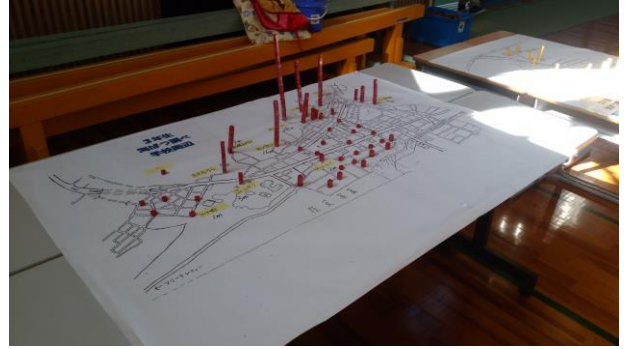
地区報告（室山南自治会自主防災会）



地区報告（築港西自治会自主防災会）



海南市教育委員会による講評



学習結果の展示（3年生）



学習結果の展示（6年生）



学習結果の展示（6年生）



学習結果の展示（6年生）



会場の様子

6. 訓練後アンケート結果

※アンケート回答数 1,315 件

1. 回答者の内訳（自治会、年齢、性別、家族構成）

【お住まいの自治会】

室山東自治会	84	6.4%	船尾中自治会	38	2.9%
室山西自治会	58	4.4%	西船尾自治会	113	8.6%
室山南自治会	109	8.3%	琴ノ浦東自治会	31	2.4%
室山自治会	7	0.5%	琴ノ浦自治会	9	0.7%
北一自治会	25	1.9%	琴ノ浦仲自治会	30	2.3%
北二自治会	33	2.5%	琴ノ浦朋自治会	16	1.2%
北三自治会	16	1.2%	矢ノ島自治会	22	1.7%
北四自治会	4	0.3%	築港東自治会	61	4.6%
北五自治会	8	0.6%	築港西自治会	81	6.2%
黒牛自治会	16	1.2%	荒浜自治会	33	2.5%
宮ノ坂自治会	11	0.8%	河内浜自治会	31	2.4%
元屋敷自治会	17	1.3%	昭成自治会	58	4.4%
西ノ浜自治会	33	2.5%	集橋自治会	22	1.7%
天王自治会	25	1.9%	集橋五友会自治会	2	0.2%
南ノ浜自治会	55	4.2%	東浜東自治会	19	1.4%
市場自治会	12	0.9%	東浜北自治会	11	0.8%
居村自治会	28	2.1%	東浜中自治会	54	4.1%
汐見自治会	32	2.4%	東浜南自治会	58	4.4%
船尾東自治会	23	1.7%	東浜西自治会	30	2.3%
			合計	1,315	100.0%

【年齢】

10歳未満	1	0.1%
10代	2	0.2%
20代	11	0.8%
30代	44	3.3%
40代	134	10.2%
50代	162	12.3%
60代	349	26.5%
70代	367	27.9%
80代以上	233	17.7%
無回答	12	0.9%
計	1,315	100.0%

【性別】

男	564	42.9%
女	737	56.0%
無回答	14	1.1%
合計	1,315	100.0%

【ご自宅での家族構成】

単身世帯	285	21.7%
夫婦のみ	403	30.6%
2世代世帯（親と子）	464	35.3%
3世代世帯（親と子と孫）	100	7.6%
その他	45	3.4%
無回答	18	1.4%
合計	1,315	100.0%

2. 訓練への参加状況

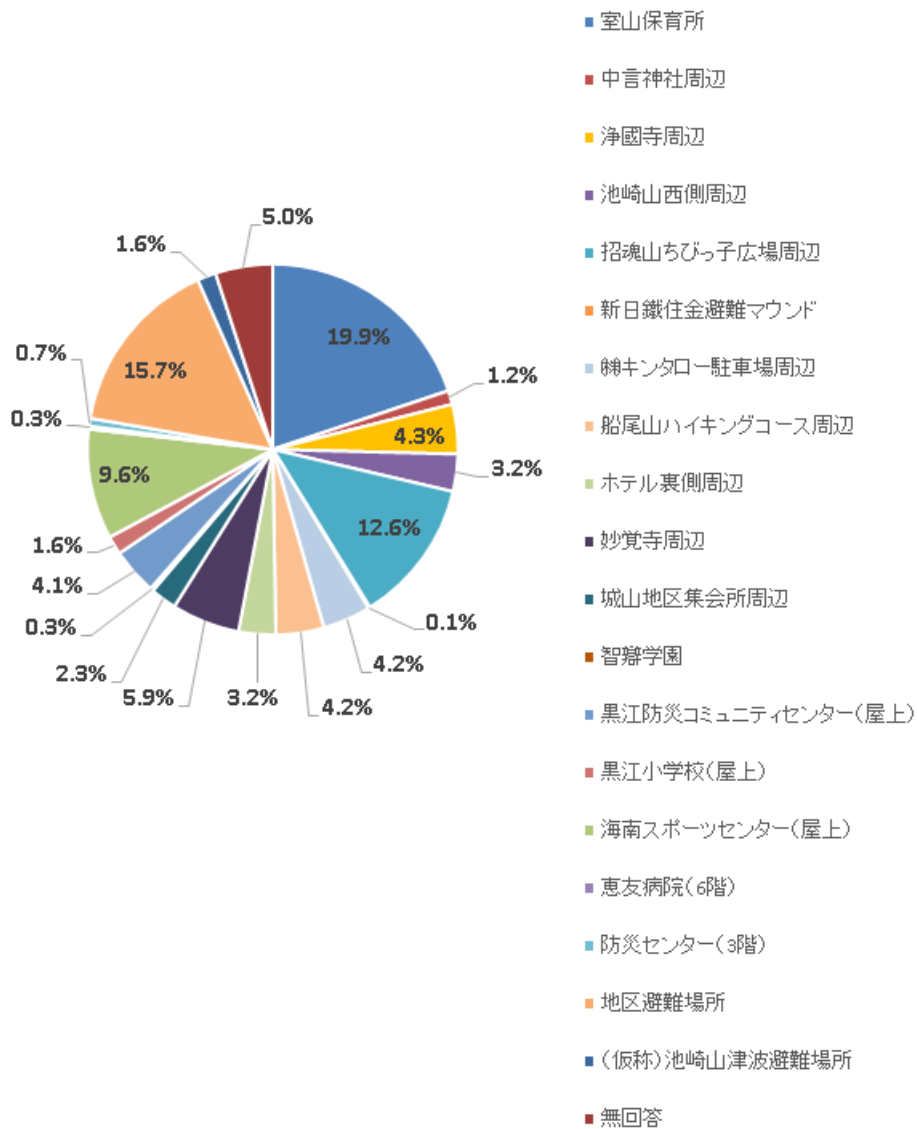
【11月13日（日）に実施された津波避難訓練に参加されましたか？】

参加した	740	56.3%
参加しなかった	562	42.7%
無回答	13	1.0%
合計	1,315	100.0%

【訓練当日に避難した避難場所】

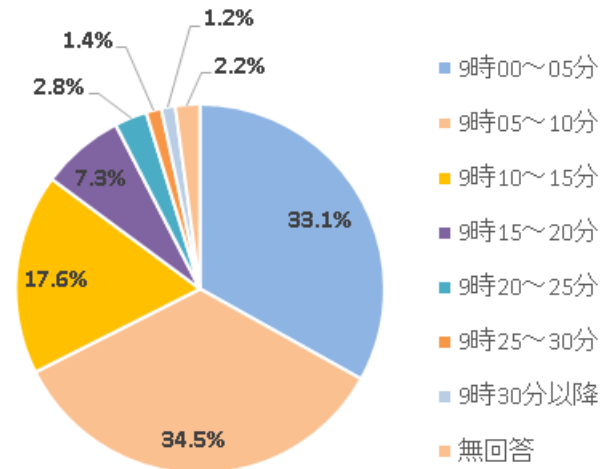
室山古墳登山道周辺	0	0.0%
室山地区高台	0	0.0%
室山保育所	147	19.9%
室山配水池周辺	0	0.0%
中言神社周辺	9	1.2%
浄國寺周辺	32	4.3%
室山保育所周辺	0	0.0%
池崎山西側周辺	24	3.2%
招魂山ちびっ子広場周辺	93	12.6%
新日鐵住金避難マウンド	1	0.1%
とんだ池周辺	0	0.0%
(株)キンタロー駐車場周辺	31	4.2%
船尾山ハイキングコース周辺	31	4.2%
ホテル裏側周辺	24	3.2%
妙覚寺周辺	44	5.9%
城山地区集会所周辺	17	2.3%
元プライスカット駐車場周辺	0	0.0%
山崎団地	0	0.0%
智辯学園	2	0.3%
黒江防災コミュニティセンター（屋上）	30	4.1%
黒江小学校（屋上）	12	1.6%

海南スポーツセンター（屋上）	71	9.6%
恵友病院（6階）	2	0.3%
石本病院（屋上）	0	0.0%
パル・シャトー海南（4階以上）	0	0.0%
防災センター（3階）	5	0.7%
黒江公民館	0	0.0%
地区避難場所	116	15.7%
（仮称）池崎山津波避難場所	12	1.6%
無回答	37	5.0%
合計	740	100.0%



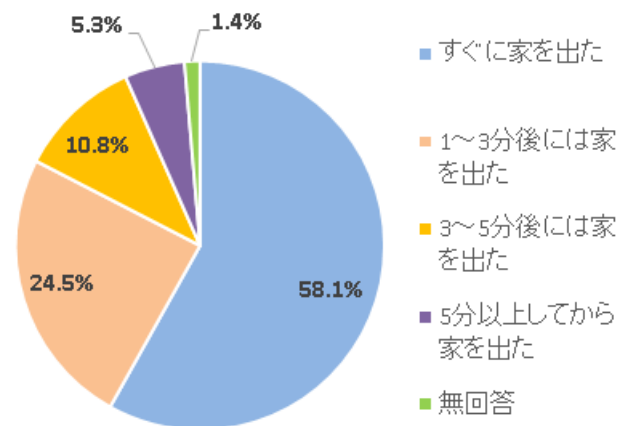
【今回の訓練では、避難場所に何時ごろ到着しましたか？】

9時00～05分	245	33.1%
9時05～10分	255	34.5%
9時10～15分	130	17.6%
9時15～20分	54	7.3%
9時20～25分	21	2.8%
9時25～30分	10	1.4%
9時30分以降	9	1.2%
無回答	16	2.2%
合計	740	100.0%



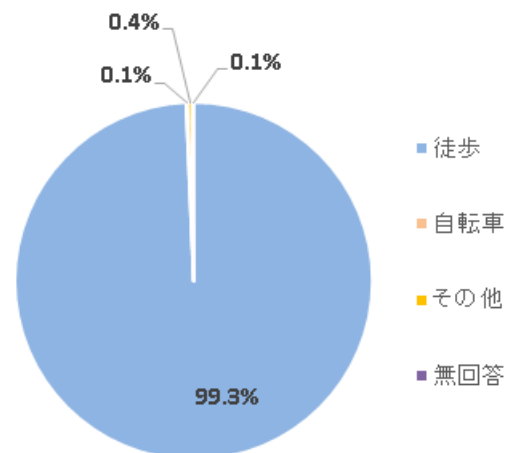
【避難訓練の開始の放送があった後、すぐに家を出ましたか？】

すぐに家を出た	430	58.1%
1～3分後には家を出た	181	24.5%
3～5分後には家を出た	80	10.8%
5分以上してから家を出た	39	5.3%
無回答	10	1.4%
合計	740	100.0%



【避難場所まで、どのような方法で避難しましたか？】

徒歩	735	99.3%
自転車	1	0.1%
バイク	0	0.0%
自動車	0	0.0%
その他	3	0.4%
無回答	1	0.1%
合計	740	100.0%

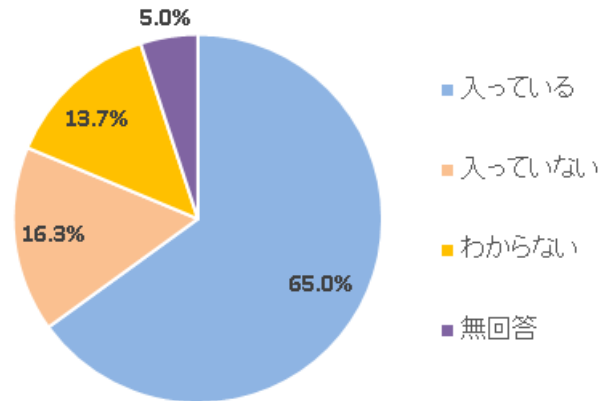


- ・約8割の住民が大津波警報発表後、15分以内に避難場所に避難完了している
- ・避難場所までは、ほぼ全ての住民が徒歩で避難している

3. 地震・津波に対する認識と危機意識

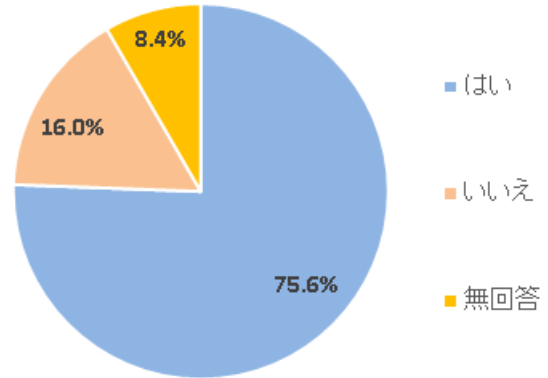
【ご自宅は、津波による浸水想定区域の中に入っていますか？】

入っている	855	65.0%
入っていない	214	16.3%
わからない	180	13.7%
無回答	66	5.0%
合計	1,315	100.0%



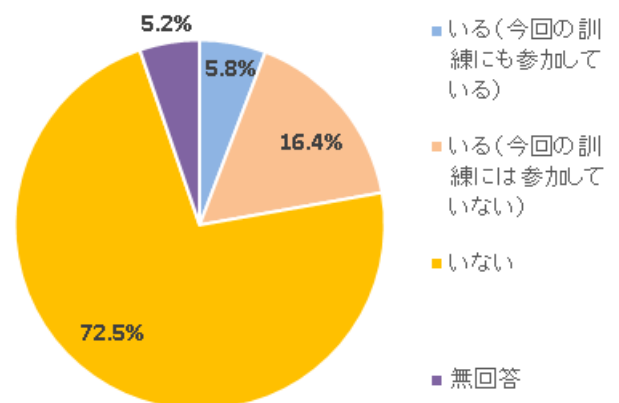
【今回、避難した場所以外に、他の避難場所も知っていますか？】

はい	994	75.6%
いいえ	211	16.0%
無回答	110	8.4%
合計	1,315	100.0%



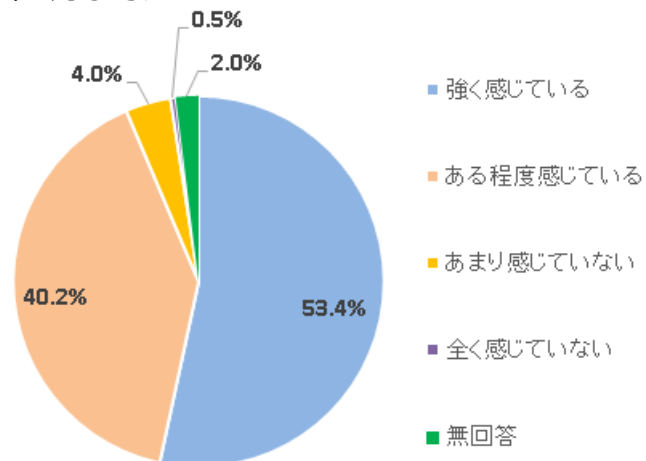
【ご家族の中に、自分で徒歩によって避難場所まで行くことができなさそうな方はいらっしゃいますか？】

いる（今回の訓練にも参加している）	76	5.8%
いる（今回の訓練には参加していない）	216	16.4%
いない	954	72.5%
無回答	69	5.2%
合計	1,315	100.0%



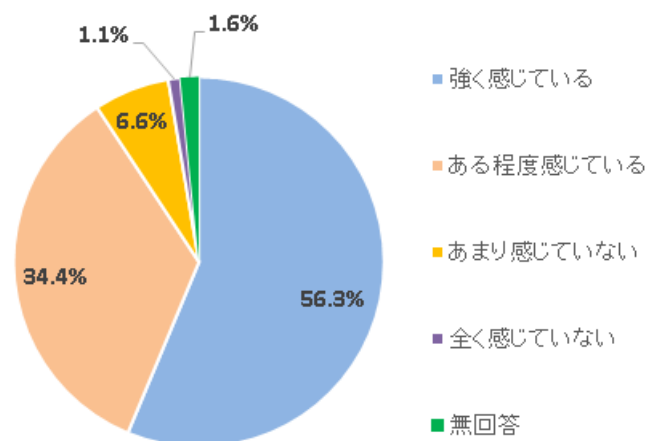
【南海トラフ地震の揺れによる住宅・建造物の被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	702	53.4%
ある程度感じている	529	40.2%
あまり感じていない	52	4.0%
全く感じていない	6	0.5%
無回答	26	2.0%
合計	1,315	100.0%



【南海トラフ地震の後に発生する津波による被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	740	56.3%
ある程度感じている	453	34.4%
あまり感じていない	87	6.6%
全く感じていない	14	1.1%
無回答	21	1.6%
合計	1,315	100.0%



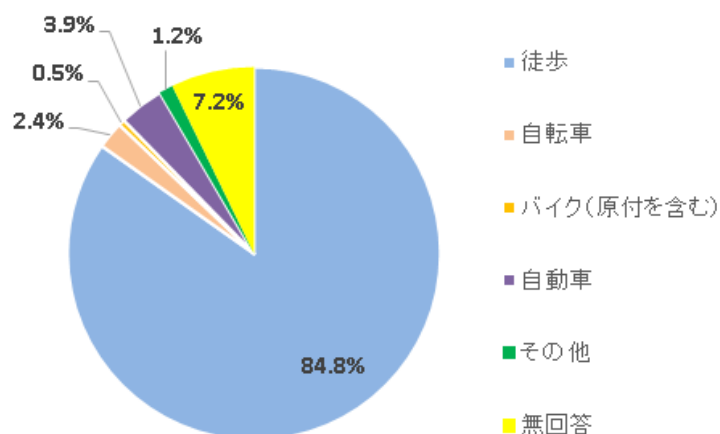
- ・ 自宅周辺の津波の浸水想定について、住民の約 8 割が認知している
- ・ 自宅周辺の津波避難場所について、住民の約 4 分の 3 が認知している
- ・ 家族全員が自力で避難できるかについて、9 割以上で把握（想定）している
- ・ 南海トラフ地震について、地震の揺れ・津波ともに、9 割以上の住民が危機感を感じている

4. 実災害時の避難の想定と問題点の認識

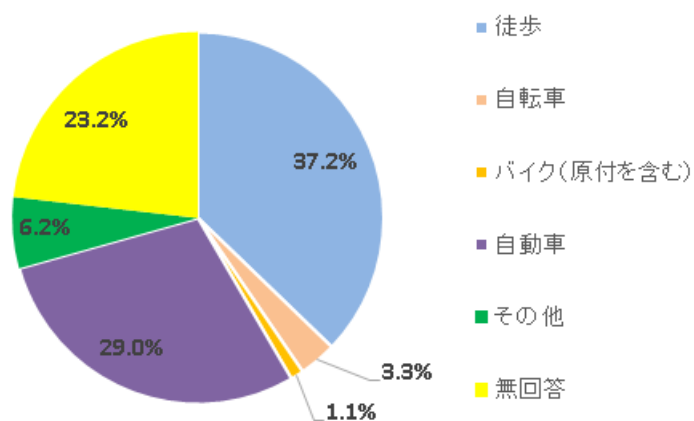
【ご自宅で家族全員がいるときに大きな揺れを感じる地震が発生し、大津波警報が発令された場合、実際には、どのような手段で避難しますか】

	家族全員が地震によってケガなどしていない場合		家族の中に地震による負傷者がいる場合	
徒歩	1,115	84.8%	489	37.2%
自転車	31	2.4%	43	3.3%
バイク（原付を含む）	7	0.5%	15	1.1%
自動車	51	3.9%	382	29.0%
その他	16	1.2%	81	6.2%
無回答	95	7.2%	305	23.2%
合計	1,315	100.0%	1,315	100.0%

家族全員が地震によってケガなどしていない場合



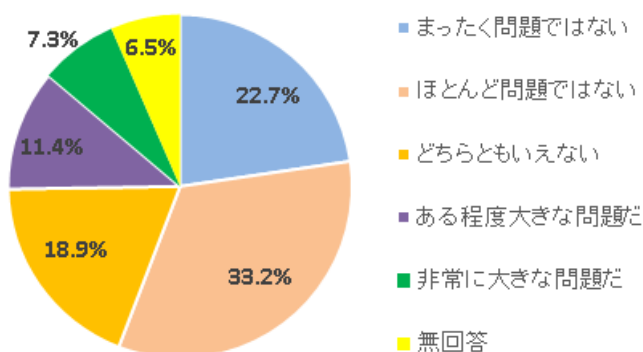
家族の中に地震による負傷者がいる場合



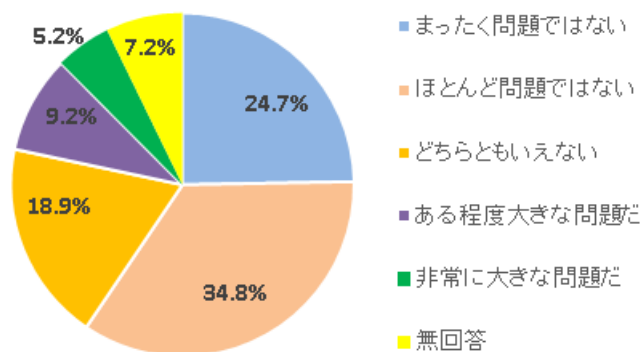
【大きな地震が発生した後、あなたと同じ場所に住んでいる家族でいっしょに津波から避難するとき、以下の項目は、どの程度、避難を困難にさせる問題だと思いますか】

	まったく問題ではない	ほとんど問題ではない	どちらともいえない	ある程度大きな問題だ	非常に大きな問題だ	無回答	合計
自宅から避難場所までの距離	298	436	249	150	96	86	1,315
	22.7%	33.2%	18.9%	11.4%	7.3%	6.5%	100.0%
自宅から外に出るまでに時間がかかること	325	457	248	121	69	95	1,315
	24.7%	34.8%	18.9%	9.2%	5.2%	7.2%	100.0%
道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること	95	181	300	311	321	107	1,315
	7.2%	13.8%	22.8%	23.7%	24.4%	8.1%	100.0%
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること	109	160	287	285	334	140	1,315
	8.3%	12.2%	21.8%	21.7%	25.4%	10.6%	100.0%
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること	108	230	318	330	219	110	1,315
	8.2%	17.5%	24.2%	25.1%	16.7%	8.4%	100.0%
避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと	261	322	272	179	175	106	1,315
	19.8%	24.5%	20.7%	13.6%	13.3%	8.1%	100.0%
周囲の人に対して、避難の支援をすること	127	246	439	188	174	141	1,315
	9.7%	18.7%	33.4%	14.3%	13.2%	10.7%	100.0%

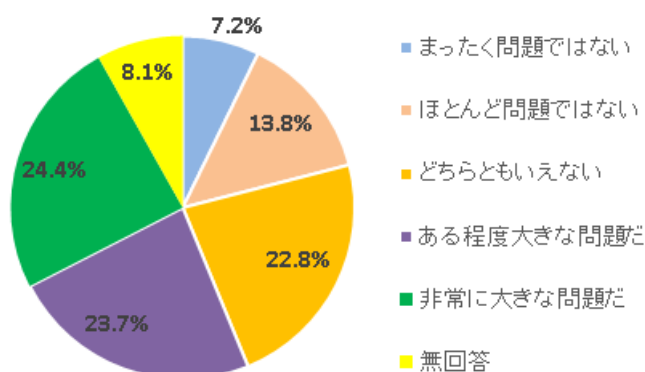
自宅から避難場所までの距離



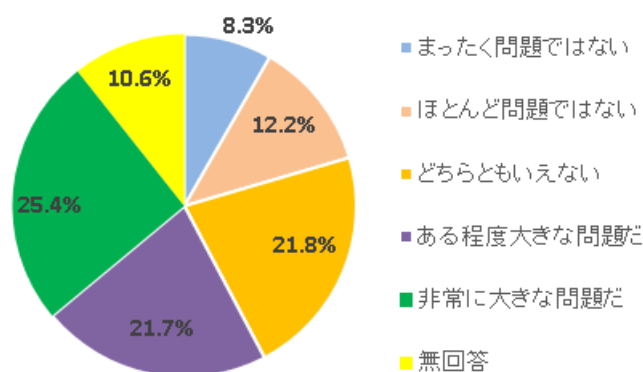
自宅から外に出るまでに時間がかかること



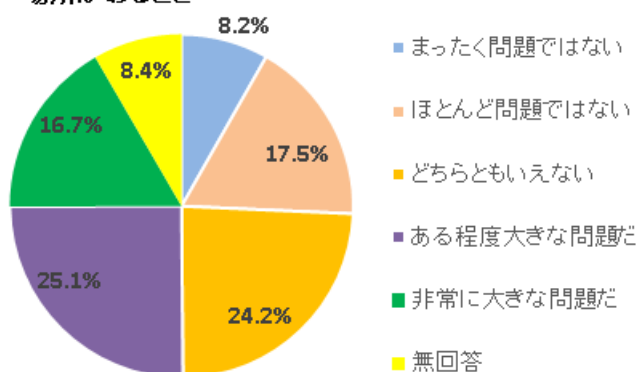
道路がこわれて、徒歩では避難しづらくなっていること



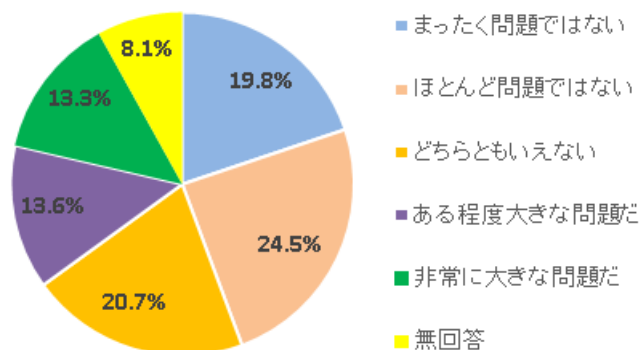
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること



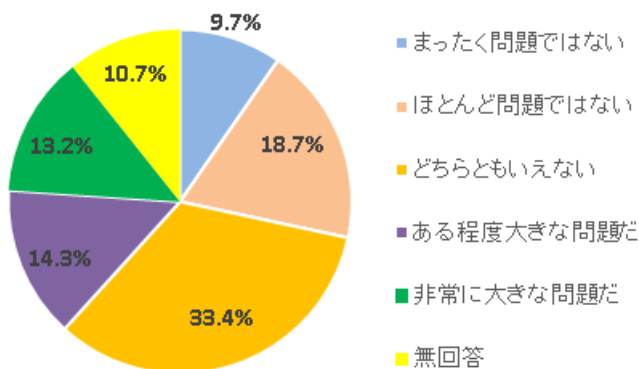
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること



避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと



周囲の人に対して、避難の支援をすること



- 地震発生後の避難の手段について、家族に負傷者がいない場合は約8割が徒歩を想定しているが、負傷者がいる場合は徒歩での避難が半数以下になり、自動車での避難が3割に増加している
- 「道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること」、「道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること」、「避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること」といった避難路に関する問題について、半数程度の住民が避難を困難にさせる問題として感じている。

7. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について

平成 28 年度地域防災活動支援事業を実施するなかで、黒江・船尾地区の皆様よりいただきましたご意見・ご要望への回答を以下にまとめました。

ご意見・ご要望の内容から分類した項目ごとに、基本的な考え方やご対応いただきたい点、市の施策・方針などを示しています。

今後の地区・ご家庭で防災活動に取り組む際の参考としていただきますよう、お願い申し上げます。

1. 地域の防災体制や取り組みについて

(1) 避難先の用途に応じた避難について

地震・津波などの災害が発生した場合の避難先については、用途に応じて「避難場所」と「避難所」に分けられます。

避難場所…災害による危険から身を守るために、一時的に避難する場所

避難所 …住居の被災または被災するおそれがあることにより避難生活を送る場所

地震・津波からの避難に当たっては、避難場所に緊急避難し安全を確保したのち、住居が安全な場合は帰宅し、安全が確保できない場合は避難所などへ再度避難（二次避難）する必要があります。

なお、市で整備する避難場所のうち、津波に対するものは「津波避難場所」と「津波緊急避難ビル」に分けられ、「津波緊急避難ビル」は津波の到達までに浸水が想定される区域外へと避難できない場合の避難場所となります。

津波から避難する場合は、可能な限り「津波避難場所」などの浸水が想定されている区域外に避難するようお願いいたします。

(2) 二次避難について

避難所への二次避難の基本的な考え方として、道路への浸水・がれきの堆積などの面から、浸水が想定される区域を通らずに避難できる経路を選択します。

黒江・船尾地区については、「船尾山ハイキングコース」が二次避難経路として想定されます。体力などを考慮し、避難可能な場合は、本経路で避難所に避難してください。船尾山ハイキングコースは「船尾山ハイキングコース入口周辺」、「招魂山ちびっこ広場周辺」、「浄國寺周辺」の3箇所の津波避難場所より進入可能です。

上記を除く津波避難場所は、浸水状況により避難所や他の避難場所に移動できない可能性があります。このような避難場所に避難する場合は、救助が到着するまでの滞在を想定し、可能な範囲で食料や防寒具などを持出しするようお願いいたします。

また、余裕がある場合は、二次避難が可能な避難場所や浸水の想定される区域外に直接避難することも有効です。

なお、二次避難が想定される室山保育所については、黒江・船尾地区内の唯一の避難所であることから、避難者の集中が予想されます。室山保育所への避難に当たっては、移動が困難な要配慮者を優先し、体力的に余裕のある方は、「亀川小学校」、「亀川中学校」、「亀川公民館」などの周辺地区の避難所へと避難いただきたいと考えています。また、自宅や知人・親戚宅に避難可能な場合は退所し、避難スペースの確保にご協力いただくようお願いいたします。

(3) 安全な避難経路の確保について

避難場所までの避難経路については、あらかじめ危険箇所や通行不可となる可能性がある箇所などを確認し、複数の避難経路や避難場所などを所要時間も含め検討し、準備いただくようお願いいたします。

(4) 要配慮者の支援について

要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）の避難支援については、支援する側と支援を受ける側のそれぞれの意識や取り組みが必要となります。

支援する側	…近隣の要配慮者を把握し、見守る意識を持つ
支援を受ける側	…周囲に対して支援の必要性と可能な範囲での支援を意思表示する

災害時の避難支援の実効性を高め、円滑に行うためには、平常時から気軽に話し合える関係を築くことが重要です。そのうえで、具体的にどのような支援を行うか（受けるか）を話し合い、災害時には支援する側の身の安全が確保できる範囲内で避難支援を行ってください。

また、市では自治会・自主防災組織を対象に、「避難行動要支援者名簿」（市で抽出した要配慮者のうち情報提供の同意を得たもの）の提供を行っていますので、地区でご協議のうえ、高齢介護課までご相談ください。

(5) 物資・資機材の整備について

市の避難場所は「緊急的」「一時的」に避難する場所として、短期間の滞在を想定しています。この間に必要となる物資や資機材については、基本的には各家庭の非常持出し品及び自主防災組織の備蓄で対応いただきたいと考えています（津波緊急避難ビルは収容人数に応じた物資を備蓄しています）。また、トイレについても一時的なものであるため、各家庭及び自主防災組織で整備したトイレ袋等で対応いただくようお願いいたします。

なお、避難場所に備蓄する物資・資機材のほか、要配慮者の避難支援のための車椅子やヘルメットなどの整備に要する経費については、「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、活用を検討される場合は、地区でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。特に、孤立が想定される避難場所への備蓄倉庫の設置・資機材の整備については、地区の負担割合を縮小した補助制度を検討しています。

(6) 防災体制の整備と防災活動について

避難場所での安否確認や訓練時の取り組み、地区単独の訓練の実施など、各地区の防災体制や活動の検討は、地区の防災力を高めることにつながるため、積極的に話し合う機会を設けるようお願いします。

また、避難所の運営については避難者を中心に、避難所周辺の住民の協力により行うことが求められ、避難所内の部屋割りや要配慮者の対応などを分担して決める必要があります。このような避難所運営に係る役割分担についても、事前に協議・検討することで、災害時の避難所運営の円滑化を図れます。

なお、市では地区ごとの津波の避難計画や避難所運営の役割分担・ルールを定めたマニュアルの作成を推進しています。作成を検討される場合は、地区でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

また、避難路・避難場所の草刈りなどについては、避難路・避難場所の状況を把握するといった面からも、原則、地区で対応いただくようお願いします。

2. 市の防災施策・方針について

(1) 避難場所・避難所・避難路の整備について

避難場所周辺の避難誘導灯・誘導看板の整備については、各避難場所ごとに年次的に整備を進めており、未整備分が完了したのち、必要に応じて再度整備する予定となっています。避難誘導灯・誘導看板の追加設置を希望する場合は、地区でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

その他、避難場所及び避難路の舗装・段差解消や手摺の設置などについても、工事担当課と調整し、整備を検討いたしますので、同じく危機管理課までご相談ください

また、室山保育所の耐震化、トイレ等の設備の整備については、対応可能な範囲を含め、引き続き具体的な方針を検討し、保育所閉園までに決定したいと考えていますので、ご理解・ご協力をお願いします。

(2) 地震による建築物等の倒壊・崩壊対策について

地震による倒壊・崩壊のおそれがある空き家、未耐震の住宅、がけ地・急傾斜地については、各担当課（下記参照）にて対応・方針を検討いたしますので、地区でご協議のうえ、ご相談ください。

空き家対策、住宅の耐震対策…都市整備課

がけ地・急傾斜地 …建設課

(※がけ地・急傾斜地の整備は建設課でとりまとめ、和歌山県に要望)

なお、ブロック塀の倒壊への対策に関しては、現在市に改修・補助の制度等がなく、改修に対する所有者の同意・費用負担が必要となることから、対応が困難なため、他の避難経路や影響のない避難場所の検討をお願いします。

(4) プレジャーボート対策について

市では、海南市水域におけるプレジャーボート等放置艇対策として、市内沿岸部4箇所（築地・日方・冷水・下津）に小型船係留施設及び駐車場等の整備を進めています。

上記内容へのお問い合わせ及びご要望がある場合は、地区でご協議のうえ、管理課までご相談ください。

(5) 風水害時の浸水対策について

対応・方針を検討いたしますので、地区でご協議のうえ、建設課までご相談ください。

(6) 防災行政無線の難聴対策について

「電話案内サービス(0120-170089)」にて放送内容を確認できますのでご活用ください(電話使用料はかかりません)。なお、放送後1時間以上の経過や新たな放送があった場合は、放送内容が消去・上書きされますのでご注意ください。

また、市のメール配信サービスでも放送内容を確認することができます。登録を希望される場合は、危機管理課までご相談ください。

(7) その他の防災に関する意見・要望について

上記以外の防災に関する意見や要望がある場合は、危機管理課までご相談ください。